



政治がわかる！せとけん政治塾 ⑬

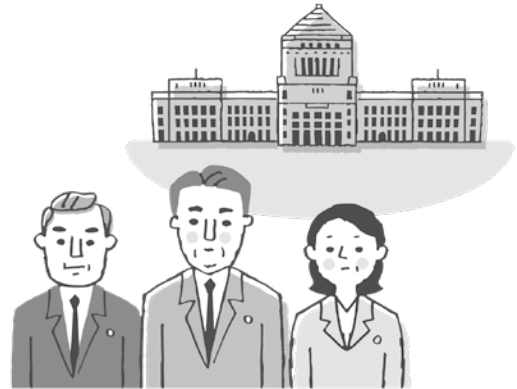
CBMC アジア太平洋大会 2021

御霊の一致

平和をつくる使命をなし遂げよう

一つの御霊において

キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において



新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人々にも平和を宣べられました。私たちは、このキリストによって、両者ともに一つ

の御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。今回は長い聖句引用になりました。しかし、この五節の中に、イエスがたつた三年半の公生涯で成し遂げた社会変革がすべて、パウロによって端的に証しされています。まづパウロは「キリストこそ平和である」と宣言します。そして、それは

(エペソ二・14〜18)



瀬戸健一郎

英国国立エセックス大学政治理論修士過程修了／獨協大学法学部卒／衆議院議員 山川ゆりこ（妻）事務所長／日本マルタ友好協会会長／（一社）日本 CBMC 副理事長／元・草加市議会議員（6期）～議員団長、議長、監査委員、全国市議会議長会評議員等歴任／1981年米国聖公会で受洗／草加神召キリスト教会所属／信仰と学問的知識及び30年余の政治経験を活かし、日本を変え、世界に平和をつくる活動を夫婦で展開している。

対立する「二つのものを一つ」にし、「隔ての壁を打ちこわし」、「敵意を廃棄」し、「平和を實現」し、「神と和解」させ、「遠くにも、近くにも平和を宣べ伝える」(これが大宣教命令)、そして「御霊の一致」が完成するというわけです。御霊の一致は、クリスチャン同志の霊の一致ではなく、クリスチャンとして神と和解し、内住する「一つの御霊」による一致を意味しています。

CBMCは全ての人に開かれた宣教団体

このシリーズも二年目に突入しました。これまで政治について議論してきましたが、経済についてはあまり議論してきませんでした。政治と経済は不可分ですから、今回はこの聖書箇所をテーマ聖句として、十一月に開催されるCBMCアジア太平洋大会をご紹介しますながら、経済につ

いて考えてみようと思います。二〇二一年十一月一六日〜一八日の三日間、世界最大のビジネスマン伝道のための宣教団体CBMC(ビジネスとマーケットプレイスをキリストに繋ぐ)が、東京で二年に一度のアジア太平洋大会を開催します。CBMCはもともと「クリスチャン・ビジネスマン・コネクション」という名称でしたが、ビジネスマンが男性名詞であることから、現在の名称になりました。昨年一般社団法人化した日本CBMCでは「すべての職業と経済をキリストに繋ぐ」と翻訳することにしました。

ここで言うビジネスというのは、「生業」のことで、すべての企業人というだけでなく、すべての職業人を対象にしています。つまり、この世で生きるためにはだれもが職業を持ち、貨幣経済の中で生きていかなければなりません。経済やお金と無縁の生活を送ることなど想像するのも難しいことです。さらに賃金労働に従事していても、主婦も学生もお金と無縁ではありません。ですから、CBMCはすべての人々に開かれた宣教団体だということになります。

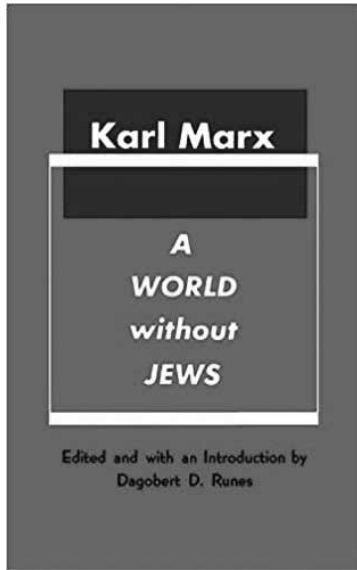
マルクスが戦ったもの

さて、お金というと日本でも「浄なもの」などと言って、例えば京都の祇園で茶屋遊びをする旦那衆でさえ、現金に触れない究極のクレジット社会を古くから確立していたり、海外でもカール・マルクスなどが貨幣経済を「マモン(Mammon)」などと呼んだりして、忌み嫌いました。マルクスは、彼の著書「ユダヤ人の居ない世界」の中で、「マモンはこれらの人々(ユダヤ人)にとつての神である。彼らは唇だけでなく、全身全霊でこれを崇拜している」と批判的に宣べ、さらに「マモンは資本主義経済の象徴であり、すべての労働者は団結してこれを乗り越えなければならぬ」と述べています。マルクスにとって、ビジネス(資本家の事業)もマーケットプレイス(経済市場)も、他人よりも豊かに



CBMC アジア太平洋大会チラシ





なりたいたいという欲求に群がる貪欲な人々の巢窟^{さうくつ}に見えていたようです。当時は、資本家と労働者には厳然^{げんぜん}たる身分の違いがありました。マルクスが戦ったのは、この身分の格差と搾取^{さくしゆ}される労働者の賃金が産みだす資本家と労働者の経済格差、そのものだったわけです。

政治的にはソ連や中国でマルクス主義を基盤とする革命が実現しましたが、結果的にこの身分格差や経済格差は両国でもむしろ拡がる結果となりました。ですから、マルクスの夢が現実化したとは言えません。むしろ、福祉国家として成立してい

るノルウェーやスウェーデンのような北欧諸国の方が経済的格差も身分制度による搾取も抑圧も存在していないので、マルクスの夢を叶えたと言えるかもしれません。

マモンの呪いから キリストの祝福に変える

経済というよりもお金＝マモンについて少しだけお話ししました。

それは、洋の東西を問わず、お金にまつわるネガティブな解釈やお金に使われることの愚かさを、私たちの先人たちが既に痛いほど経験してき

ますが、実はマルクスは究極のリベラリスト（自由主義者）であり、個人の尊厳や可能性を守ろうという気概から、当時、階級闘争を展開していました。

蛇足ではありますが、ソ連・ロシアの作家、劇作家、歴史家であるソルジェニーツインは、「神への憎悪がマルクス主義の原動力である」と述べたり、マルクス自身も「宗教は民衆のアヘンである」と述べたり、マルクスは反キリスト主義者だという烙印^{おくれん}を押されました。しかし、実際に彼が戦ったのは、当時の教会権力であり、アヘンは人々の苦しみを一時的にでも癒す特効薬という意味であり、現実社会で差別、抑圧、貧困、格差にあえぐ人々に常に視点を置いていたのです。

現代社会では、既に身分制度は殆どの国々で撤廃^{てつぱい}されていて、階級闘争の原因が消滅してしまいました。資本主義と貨幣経済だけが、私

たちの生活の基盤になって残されていると言つていいでしょう。長い議論を短くすると、CBMCはこのお金とビジネスを、マモンという得体のしれない怪物から引き剥がし、これをキリストに捧げていく。そして、かつてマモンが支配していた経済をキリストの祝福が現わされる「場（プレイス）」に変えて頂こう、という

思いで活動するキリスト者の団体なのです。そしてその使命は大宣教命令です。私たちの日常の仕事や職場が、私たちのビジネスであり、マーケットプレイスです。そこで出会う人々にキリストの福音を伝える。そのことによって、私たちの仕事も職場もお金も、マモンの呪いからキリストの祝福に変わります。

大会開催までの道のり

ここまでざっくりとお金と経済についてお話ししてきましたが、C



BMCアジア太平洋大会開催に至るまでのお証しをしたいと思います。

アジア太平洋大会は二年に一度開催されます。前回は二〇一九年にカンボジアで開催されました。その時、次回の開催地が東京であることが発表され、私たちは早速そのテーマ聖句を祈り求めました。ほどなく与えられたのは、実は次の聖句でした。

謙遜と柔和の限りを尽くし、寛

容を示し、愛をもって互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。(エペソ四・2-5)

アジア大会の日本招致が決まった二〇一九年は、国内では今上天皇が即位して令和元年を迎え、消費税が一〇%になりました。海外との関係では、米中関係が緊迫し、北朝鮮がSLBM(潜水艦発射型弾道ミサイル)の発射実験に成功。これが海の中から日本に向けて核弾頭を搭載したミサイルを発射した場合、現在国会で議論されている「敵基地攻撃能力」は無意味になりかねません。さらに徴用工問題で日韓関係が悪化。香港では学生たちが民主化を求めて大規模デモを行いました。開催地日本と中国、韓国、北朝鮮との緊張が

高まる中で祈ると、まず関係国のキリスト者たちがエペソ四章三節にある「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。」という聖句が自然と日本CBMCの理事メンバーにも響き、共感が拡がりました。そこで大会テーマ「御霊の一致」が決定されました。

ところがその後、年が明けて二〇二〇年の春ごろまでには、コロナ禍が世界中で猛威を振るい、大会の開催が危ぶまれました。それまでCBMCアジア理事会は、加盟国を輪番で巡り毎月開催されていたのですが、これがコロナ禍による渡航制限で出来なくなりました。代わりに、ズームを利用したオンラインの理事会、それに加えて毎週土曜日にオンライン祈祷会が始まったのです。日本CBMC国家朝餐祈祷会は十一月に延期し、大幅に参加者を制限して開催しました。さらに年が明けた今年、いよいよアジア太平洋大

会を実行するかしないかという選択に迫られましたが、オンライン(現地)参加とオンライン参加を合わせたハイブリット大会という形態で実施することが決まりました。

コロナ過の中で実現した御霊の一致

CBMCアジア理事会の皆様は、開催するもしないも開催地に任せ、いずれの場合にせよ協力を約束すると言って下さいました。まだ日本に渡航できるようになるかどうか分からない段階で、ハイブリッド大会として開催することが決定したことを伝えると、アジア理事会のキム・チャンソン会長(理事長とは異なる役職)から「開催することになったのは嬉しい。しかし、大会テーマである御霊の一致で何をすることが問題だ」とお題が投げかけられました。二年前に東京での開催が決まっ

第23回
アジア太平洋大会 2021



た時には、アジアの地域情勢が緊迫して、「御霊の一致」を求めなければならぬというところに立たされていきました。しかし、この一年半の間、CBMCアジア太平洋の理事や各国の一般会員は毎週土曜日の朝にズームで集い、共に祈り合ってきました。私もこの間に、メッセージを二回、開会祈祷を数回、担当させて頂きましたが、毎回十数か国及び地域のメンバーが常に三〇名以上も集い、輪番制でメッセージなどの役割を担い、一対一で祈り合うブレークアウト・セッションも繰り返し返してきました。

ここには既に「御霊の一致」があ

りました。「神のなざることはすべからず、時にかなって美しい。」(伝道者三・11)という御言葉のとおり、神はコロナ禍を通じてアジア太平洋地域全体のCBMCを担う器たちに、御霊の一致をもたらさせて下さいました。果たしてキム会長が言うように、この御霊の一致で神は、私たちに何を成し遂げよと言っておられるのか。

その答えを求める開催地日本CBMCの理事たちの祈りへの応答が、冒頭のエペソ二章の御言葉だったわけです。実はCBMCの代表的な学習プログラムがオペレーション・テモテです。パウロとテモテが

対話を通じて信仰の深みに近づいていく。パウロは師であり、テモテは弟子です。CBMCは対外的には大宣教命令を実行する団体ですが、対内的には弟子訓練を大切にしている団体です。その師であるパウロがエペソへの手紙の第二章で、しかもたった五節の中で、イエスがこの世の公生



涯で成し遂げた偉業を力強く証していたのです。

平和をつくる者として

キリストに倣う者として、特に「敵意を廃棄」して、「平和をつくる」。

そして、それを「世界に宣べ伝える」ことのすべてを為すべきこととして読み取ることが出来ます。そんなテーマ聖句を与えられました。

日本政府はこれまで「アジア太平洋」と言ってきた地域を「インド太平洋」に置き換えています。これ

はアジア太平洋には中国が含まれるが、インド太平洋には中国は含まれないという意図が背景にあるのです。ここには明確に中国への「敵意」が感じ取れます。

私たちは今回のアジア太平洋大会を通じて、この「敵意」を廃棄するべきだと思ふのです。なぜなら、それは既に十字架に付けられ、キリストによって既に敵意が廃棄されたからです。キリストが廃棄した敵意をなぜ、私たちがまた引つ張りだしてくるのでしょうか。それは愚かなことです。祈りの心をもって、CBMCアジア太平洋大会を成功に導きたいと願いますし、是非とも、皆様のご参加をお願いしたいです。そしてこの混沌とした時代に、共に平和をつくる者となりましょう。

平和をつくるものは幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。(マタイ五・9)



日本のリバイバルのためのクリスチャンジャーナル

HAZAH

連載 政治が分かる！せとけん政治塾（全14回）

- 第 1回 民主主義ってなんなの？
 - 第 2回 なぜクリスチャンとして政治に関わるのか
 - 第 3回 個人の可能性が100%開花する政治をめざして
 - 第 4回 今、求められる愛と寛容と赦しの政治
 - 第 5回 超高齢化を食い止める身近な政治課題～不妊治療と少子化対策
 - 第 6回 新型コロナウイルス感染症対策～なぜ国産ワクチンが出来ないのか？
 - 第 7回 国産ワクチン開発を急げ！～もっと知りたいワクチンのこと
 - 第 8回 平和外交と人権問題の本質～日本は対米思想から自立できるのか？
 - 第 9回 東京オリンピック・パラリンピックとワクチンパスポート
 - 題10回 戦後76年目の終戦の日に想う Part I～真珠湾攻撃の真実
 - 第11回 戦後76年目の終戦の日に想う Part II～マッカーサーの戦後占領政策とWGIP
 - 第12回 日本を変える、世界が変わる～総選挙を目前に日本のあるべき姿を考える
 - 第13回 CBMC アジア太平洋大会：御霊の一致～平和をつくる使命をなし遂げよう
 - 第14回 政治論争になる右派と左派の違いとは何か？～北欧諸国のような健全な左派言説の復権
- ※以上、2020年11月号～2021年12月号まで、毎月掲載全14回。 （完）

ご意見・ご感想は setokenichiro@gmail.com までお寄せ下さい！

バックナンバーは <https://setokenichiro.com/voices/> から閲覧できます！

※執筆記事・論考 Discussion 記事一覧から（HAZAH）をご参照下さい。



←バックナンバーのある「発言・メディア集 Voices」へのQRコード

※月刊ハーザーご購入のお申し込みサイトは次のQRコードから



Malkoushu Online



株式会社マルコーシュ・パブリケーション 〒297-0017 千葉県茂原市東郷 1373